

国民のわずか0.6%の福井県 人口減少に歯止めをかけられるか

このままでは 存続の危機



平成26年1月福井市の成人式

本県の全国人口に占める都道府県別人口の割合は僅か0.6%で推移し、平成25年10月の全国市の人口ランキング(別

「住みよさ日本一」と評される本県だが、毎年定住人口が増えてこそ実感できるものであり、あらゆる対策を打たなければ少子高齢化に歯止めはきかない。

昭和35年と昭和55年の20年間で1734人減少、以降5年ごとに生まれた成人人口を20年前と比較すると57人、2285人、177人、395人、1110人、1357人減少と、年々減少の一途を辿っている。

昭和35年と昭和55年の20年間で1734人減少、以降5年ごとに生まれた成人人口を20年前と比較すると57人、2285人、177人、395人、1110人、1357人減少と、年々減少の一途を辿っている。

昭和35年と昭和55年の20年間で1734人減少、以降5年ごとに生まれた成人人口を20年前と比較すると57人、2285人、177人、395人、1110人、1357人減少と、年々減少の一途を辿っている。

成人人口 昭和45年の半分に

国立社会保障人口問題研究所の発表による将来人口の予測によれば、福井県の人口は平成22年の80万6千人が、平成37年(73万1千人、平成52年(25年後)63万3千人と予測している。県内の年齢別人口割合の今後

予測で0〜14歳が13.9から11.6、10.8%となり15〜65歳は60.9から55.6、51.7%と減少し、65歳以上は25.2、32.8、37.5%と増加する。また75歳以上は13.5、19.5、22.9%と少子高齢化が着実に進む。